



清正の遺産を一挙公開 賤ヶ岳で使った槍も

9月15日(水)~21日(火)
鶴屋東館7Fホール

慶長16年(1611年)加藤清正は京都から熊本に帰る船内で発病。熊本城内において49歳で亡くなりました。今年、清正が亡くなり399年目の年です。ただし、仏教では数え年計算をします。今年が「400年遠忌(おんき)」となります。

熊本城と城下町を築いた

清正の「400年遠忌を記念して、清正菩提寺の本妙寺(熊本市花園)所蔵の史料を公開する「加藤清正と本妙寺の至宝展」が9月15日から鶴屋百貨店東館7階ホールで開かれます。専門家が調査を進めてきた本妙寺所蔵の武具や工芸品、清正自筆の書状など今まで人目に触れていない貴重な史料も含め公開されます。

ところで、清正の遺産が多数熊本に残ったことは多くの幸運が重なったからと。まず、加藤家改易の後に熊本入りをした細川家の庇護で本妙寺は守られ宝物も残されました。のち、江戸中期に8代将軍の徳川吉宗が

清正のひ孫※ということもあり清正は復権します。さらに本妙寺が市街地から離れた中尾山中腹にあったため西南の役や太平洋戦争の戦火、昭和28年の大水害からも遺産は守られました。まさに400年の間、本妙寺宝物はタイムカプセルの中にあつたといえます。

現在も残る清正の至宝は1300点を数えます。近年の調査で、これまで未公開の文化財も調査が進みました。書家 洪浩然による山号額字や賤ヶ岳(しずがだけ)合戦時の清正の槍など新発見や新解釈の逸品も今回多数展示されます。清正ファンならずとも県民の皆様には必見のものばかりです。

貴重な文化財を後世に残すためには人手と資金が欠かせません。会場内では図録(1000円)や勝守などのグッズ類も販売されます。これらの利益は全て文化財保護資金になります。皆さんも協力してみませんか。

(孫兵衛)



3



1



2

1 網代鞘合口拵(清正拵)

あじろざやあいくちこしらえ

徳川家康と二条城で会した豊臣秀頼を護衛した清正。この合口を懐に隠して持参したと言われています

2 桔梗折墨紋蒔絵飯椀

きぎょうおれずみもんまきえめしびつ

桔梗と蛇の目、折墨が清正の家紋です。この食器は天正16年(1588年)に豊臣秀吉から下賜されたものです

3 白檀塗蛇目紋蒔絵仏具足蛇目紋長烏帽子形尺

びやくだんぬりじゃのめもんまきえほとけどうそくじゃのめもんながえほしがたかぶと

清正の鐙です。鐙は実用性を持つ一方で個性も強くあらわれます。派手な彩色や長さを強調した烏帽子は清正好み一品です

「清正公400年遠忌記念 加藤清正と本妙寺の至宝展」

会場/鶴屋百貨店 東館7階ホール

入場料/一般500円 高校生以下無料

問い合わせ/本妙寺 TEL096(354)1411

主催 加藤清正と本妙寺の至宝展実行委員会(本妙寺、加藤清正と本妙寺の文化遺産を守る会、熊本日日新聞社、鶴屋百貨店)

協力 加藤神社、崇城大学、熊本日韓文化交流研究会、「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動本部他

※清正の娘のあま姫は、紀州徳川頼宣の正室です。しかし、子供はいませんでした。2代光貞は側室の子です。ですから、その子将軍吉宗はあま姫の義理の孫、清正にとっては、義理のひ孫ということになります。

勝守

本妙寺の「勝守(かちまもり)」は、清正の武勲や正義感にあやかり、勝負ごとや学業成就のお守りとして昔から有名です。今回、400年遠忌と展示会開催記念の「勝守」を発売します。1枚500円です。

